



参加者
青木 小林
中井 長谷川
福田 堀田
間木 村田
吉田
9名



新しいクラブ室で・・・

1年3ヶ月ぶりに社内に設けられた松寿会の新しいクラブ室に戻る。動物の防衛本能によるのか、やはり相応の広さの部屋が落ち着くように思われる。

寂光院の紅葉の作が披露のメインになる予定の例会でしたが、そうは思い通りにならないのが常で、いささか寂しいお披露目となりました。

こんな動きにお気づきでしょうか

アマを対象にした写真の応募案内に「未発表のものに限ります」とあるモノ。新聞社や雑誌社の場合、著作権は当社にあると但し書き付きのモノもあるが、要は面子に拘っているような感じがしないでもない。スポーツやコンクールといったモノは、いくらでもダブって賞を受けている。良いものは良いと色々な面で評価されても結構じゃないかと思われるが……。「フィルムの提出をお願いすることがあります」といったものは、さすがになくなったようですが、無加工ということではちょっとおかしいこと。昔から「覆い焼」や現像の処理過程で露出調整をすることは常套手段であったわけで、今さら加工がなんだということになる。これらはデジカメ時代になると別世界のことになり、「レタッチしたものでOK」という応募案内をみるとホッとします。

写真は真実を写すモノではなく、写真という手法を使って新しい画像を創作するものだといった若手（名は失念しました）の写真家でしたが、近年のTVドラマやCM、グラフィックにみられる新進気鋭の人たちの感性に惹かれることがあります。

インターネットを介して、多くの新鋭プロのPhotographをみることができますので、時間のあるときに見ていただけたらと思います。

レタッチによる補正は!!



近年、アマ向けに数多くのレタッチソフトが市場に出てきましたが、需要があつての供給かと思われ、写真の世界が変わるのが楽しみになってきました。

まずは正当派の補正。村田さんの銀塩ですが、(左)が原画で、落ち葉に対して手前の葉っぱの青が気になるということで、(右)のように葉っぱだけを黄色く、他はそのままにして、補正したらどうかと……。



青木さんから、全山、見事な紅葉だったと…、その感動の一枚をお借りしました。
 (左)が借りた原画で、カメラの画素が小さく、しかも遠景のため木々の輪郭が呆けていると謙遜される。一層のこと、彩度を落とし霞を架けて東山魁夷画伯の世界に寄れば素晴らしいだろうと思ったりする。それはさておき、ボケのある分、シャープにしたらどうかというのが(中)で、コントラストが強く、堅くなって好みが変わるだろうと……。そこで紅葉を主にして赤だけを抑えたら堅さが和らぐだろうと手を加えたのが(右)で、並べて見比べると微妙な差で印象が変わることに理解いただけるかと思う。

★画素の件ですが、最近のケータイのカメラが800万画素を搭載するとか、されたとかいわれていますが、デジカメを選ぶときに画素だけにとられるのは危険かと思います。

ケータイや低額のコンパクトには、北九州？で作られているという成形樹脂(研磨なし)のレンズが使われているという。中級のコンパクトは一応ガラスレンズで、それなりに構成されています。コンパクトのハイエンドや一眼デジ(一デジ)は、当然メーカーの面子を掛けたレンズで構成されている。ところが、銀塩と根本的に異なるのは処理ソフト(エンジン)で、これが仕上がりに大きく影響しているのはご承知のこと。とにかくメーカーは画素数を前面に掲げてきますが、画素数だけで判断したり比較してはならないということのを改めて認識していただきたいなと思います。

???



次は、堀田さんにお借りしたモノです。(左)が原画ですが、どうしたことか撮影現場からは想像もできない色上がりになっていました。一概にホワイトバランスの問題とは言い難く、何故強い青(赤の補色)が掛かったのか理解できません。デジカメには時々似た現象が起きますが、できれば何枚か、そして設定を少し変えて撮っておきたいなと思います。一枚しかなければと、強引にレタッチしたのが(右)で、何とか通常的な見慣れたものにすることができました。見方を替えて、予定外であったこのブルーを深めてGraphicのbaseを作るとどうなるかと試みたのが次のモノです。



まず、原画のブルーを深めたものと、レタッチで色補正したものを合成し、一部を抜いたものが(左)で、こ



れに紗を掛けたのが(右)になります。ドラマなどで夜のシーンに使う手です。



同じく、堀田さんからの冬サクラです。折角のデジカメなんですから、色々なアングルから撮っておくと、これだけの色があるわけですから、きっと想定外のカットをモノにできたかも知れません。

このとき、デジカメは焦点深度が深いので、ピント合わせに注意したいもので、うっかりすると手前の紅葉にピントが合ってしまう。



福田さんから希な一枚が提示されました。

屋根の影を思うと、これも色々なアングルが欲しいモノで、それと、自由にトリミングができるように背景を大きく撮っておきたい、美味しい題材でした。

偏向が使えたら、どう見えるかなとか、あれこれ妄想を抱かせてくれるなど、有り難い一枚でした。謝々!!! 参考にさせていただきます。

次回、第122回の例会は

1月は正月早々ということで、お休みということになりました。従って、次の例会は2月ということになりますが、寒気のまっただ中ということで続いてクラブ室でということになります。

正月といっても、お互いにこの年になれば特に決めて撮るモノもないでしょうが、目についたもののスナップでも見せて頂けたらと楽しみにしています。

毎回提供させて頂いている撮影の資料ですが、季節はずれといわれても月に1点か2点しか入手できないモノを、勉強のためにとコツコツ集めているモノであり、順序を変えると纏まりが取れませんので、季節に合わせたものと言われても無理で、次の季節に見て頂くということでご容赦ください。

資料作りには、それ相応の経費も掛かりますので、出欠の連絡はご面倒でも忘れずをお願いします。



村田 電話↓

0568-81-8283

と き 平成21年2月10日(火)13:00~
ところ 松寿会クラブ室